

祭典ニュース

第2号

発行
2024日本のうたごえ佐賀祭典in佐賀実行委員会 宣伝広報委員会

第二回実行委員会開催

二〇二三年十二月十六日、神埼市千代田公民館において、九州のうたごえ連絡会の森川議長、堤事務局長をはじめ県内外関連団体の実行委員参加のもと、日本のうたごえ祭典in佐賀の第二回実行委員会が開催されました。

開会に先立ち、祭典テーマソング予定の「あつまろう佐賀へ！」を全員で合唱。その後松田運営委員長が開会の挨拶を行いました。続いて、今回初めて参加された方の自己紹介を経て、野中宏樹実行委員長が挨拶を行いました。



第2回実行委員会会場風景

その後、松田運営委員長から祭典開催要項の説明、各委員長による現時点での企画案、組織目標案、

予算案、広報宣伝案、事業部計画案、新聞拡大状況等の説明及び報告がありました。なお、体制案については提案するには至らず今後運営委員会でも継続審議することになりました。

質疑の中で、「コンベンション補助」「星よおまへは」「新曲バージョンの取り扱い」「ゆずりん」への協力依頼」「若者の結集」「祭典テーマソング」「特別音楽会のチケット代金が高い」などの意見のほか「悪魔の飽食を企画案に」などの意見が出ました。

討論のまとめ

荒木栄の「星よおまへは」の新バージョンの企画について、九州ではうたえないという意見があった。

ことより、もう三十年近く前にありますが阪神淡路大震災の被災者の方々、あるいは東北の震災の福島被災地仮設住宅の方々、あるいは関西、久留米でもそうありますがホームレスの方々や歌を通していろんな交流をさせていただいて来ました。

（四面に続く）



野中宏樹実行委員長の挨拶

実行委員長の野中宏樹です。鳥栖市内でキリスト教協会の牧師をしています。本日は九州

各県から多くの方が結集下さっているということ、なんとしても、このうたごえ祭典、大功の中に閉幕を迎えたいと心から願っています。私なりに歌に対する思い入れが様々な形にあります。どさらかという私ほどこかに集まってホールで歌うという

だが、この新バージョン演奏の企画は現時点での仮置きであり、今後検討することとなった。

次に、来年十一月佐賀で「ゆずりん」のコンサートがあるのが、全国的にもファンが多く佐賀との関係も深い「ゆずりん」の参加を検討したらどうかという提案があり、今後検討することとなった。

次に、佐賀には昨年若者が三十五名集まっており、今後りんごの木保育園の保育士との懇談、医療連の若者との懇談等を通して若者の結果を図っていくとの報告があった。

次に、今年佐賀で開催された創作講習会で作られた「あつまろう佐賀へ！」と「Love&Peace 未来の子もたちへ」を祭典のテーマソングにしたらどうかという提案があり、今後検討することとなった。

次に、コンベンション補助に関する質問が出たが、施設に対するコンベンション補助については佐賀アリーナは無いが、佐賀市文化会館は有るとの回答があった。なお、宿泊数に応じた県・市のコンベンション補助については今後調べることとなった。

次に、企画案については変更の

今後の予定

- 1/13(土) 運営委員会
- 1/14(日) 宣伝広報委員会
- 1/18(木) 神埼地区実行委員会
- 1/20(土) 平和うた喫(鳥栖)
- 1/21(日) うた新拡大委員会
- 1/27(土) 運営委員会
- 2/23(金) 日うた協全国総会

余地を残しておいた方がいいという意見があり、最終的に決まるのは来年二月の全国実行委員会以降なので、佐賀案としては変更の余地を残しておくこととする事となった。

次に、全国協常任委員会で「悪魔の飽食」を演目に入れて欲しいという意見があったとの報告を受け、悪魔の飽食については企画の初期の段階で出ていたがいつの間にか立ち消えになった経緯はあるが、今後検討することとなった。

次に特別音楽会チケット代金が四、〇〇〇円は高すぎるという意見があり、チケット代金については高校生や子供料金も含め今後検討することとなった。

そのほか、「Stop Osprey!」のユーチューブ発信はあいついという意見が出され、今後広めていくこととなった。



企画案

特別音楽会

<11/29(金) 佐賀市文化会館>

- ☆ようこそ佐賀へ～面浮立
- ☆キッズステージ～少年少女合唱
- ☆ふるさとを歌う～筑後川
- ☆佐賀ゆかりの若い音楽家
- ☆日本のうたごえ合唱団
- ☆ウクライナへの思いを込めて
～オクサーナ・ステパニユック
- ☆九州の思いを込めて
～荒木栄：地底のうた 他
- ☆池辺普一郎と歌う

大音楽会

<11/30(土) 佐賀アリーナ>

- ☆全国郷土芸能太鼓
- ☆つながりステージ
～若者・保育・教育
- ☆語りと合唱による組曲「平和の旅へ」
- ☆佐賀の合唱団とともに～ふるさとの四季
- ☆ぞうれっしやがやってきた
- ☆歓迎の踊り
～岳のしんたろうさん
- ☆女声合唱～いのちをうたおう
- ☆全国三つのたたかい
- ☆荒木栄を歌う～新編曲バージョン
- ☆歌継ごう～スタートラインほか
- ☆若者とともに
- ☆エンディング～翼をください

企画案の紹介

特別音楽会

来年十一月二十九日(金)佐賀市文化会館大ホールで開催予定の特別音楽会では、オープニングとエンディングを除き7ステージの企画案を検討しています。

池辺普一郎と歌う



皆さんよくご存じの池辺普一郎さん編曲のアメリカングレイスを編曲者自らの指揮で二百名以上の大合唱で歌おうという企画です。この曲にはソプラノソロがありま

すがスペシャルゲストによるまさにアメリカングレにアメリカングレな企画も検討されています。お楽しみに。

ウクライナへの思いを込めて



ウクライナのキーウ出身のオペラ歌手のオベラ歌手でありバンドウラ奏者のオクサーナ・ステパニユックさんによるステージです。

オクサーナさんは世界的に著名なコロラトウーラ・ソプラノの歌い手で、国立ウクライナ・チャイコフスキー音楽院声楽科及び器楽科を首席で卒業されています。また二〇〇二年イタリア世界音楽コンクールで優勝するなど国際コンクールで数々の優勝経歴の持ち主です。演奏曲はまだ決まっていますが、どんなうたごえが響き渡るか、今から聴くのが楽しみでワクワクしてきますね。

佐賀ゆかりの若い音楽家

このステージには佐賀ゆかりの四名の音楽家の方に演奏をしてもありますが、今回はこの中から大田智美さんを紹介いたします。大田さんと佐賀との関係は、大田さんのお母さんが神埼市出身というご縁で出演依頼をしたもので



大田さんは国立大学付属音楽高等学校ピアノ科を卒業後ドイツに渡り、フオルクヴァンク音楽大学ソリストコース・アカデミーオン科を満場一致の首席で卒業し、ドイツ国家演奏家を取

賛同金を集めましょう

チケット販売までの運転資金、豊かな祭典にするために。佐賀で三百万円、全国で三百万円、計六百五十万円が目標です。会員一人当たり六万円が達成。各合唱団で組織目標を決め、組織



委員会で集約します。十二月末までに百万円、二月末までに二百万円、四月末までに三百万円を目標に集めましょう。まずは、年末年始、身近な人から呼びかけましょう。

九州の思いを込めて

このステージは福岡出身のうたごえ界のスーパースター、荒木栄生誕百周年を記念し、九州のうたごえの総力を挙げて取り組むステージです。

荒木栄については皆さんよくご存じなので、詳細な紹介は省きますが、知らない方でも「がんばろう」や「この勝利ひびけとどろけ」

「沖繩を返せ」の作曲者というところ、ああ、あの曲かと思わず頷かれるのではないのでしょうか。このステージでは男声合唱の「地底のうた」や混声合唱の「わが母のうた」などを予定しています。九州だけでなく全国の多くの荒木栄ファンの方が楽しみにされているステージになること間違いなしです。

そのほか、「キッズのステージ」として少年少女合唱団、「ふるさとを歌う」ステージとして團伊玖磨作曲の「筑後川」、「日本のうたごえ合唱団」による演奏も企画されています。なお、オープニングは佐賀の芸能、面浮立が候補にあがっています。エンディングは会場の皆様と出演者が一緒に歌う「ふるさと」の大合唱です。

大音楽会

十一月三十日(土)は、八千四百人収容可能な佐賀アリーナにおいて、全国の歌の仲間約三千人が一堂に集い歌い交わす大音楽会を企画しています。オープニング、エンディング含めた十二ステージの企画案を検討中です。

全国郷土芸能太鼓

オープニングは郷土芸能の太鼓の演奏を企画しています。全国と佐賀の太鼓演奏家数十名によるウエルカム演奏です。どのようなステージになるか楽しみです。

つながりステージ

昨年の佐賀祭典には県内から三十数名の若者が集まり、うち二十名が合唱発表会に参加しました。

開催要項 (抜粋)

☆基本方針

- ・戦争をなくし命の尊厳を歌い交わし笑顔あふれる子供の未来を約束する
- ・佐賀の三つのたたいを「うたごえ」で発信し、全国に連帯を広げる
- ・「戦争ではない平和」を世界に発信し、平和な世界を築く希望と勇気を共有する。
- ・人権を尊重し「人間らしく生きたい」という願いを分かち合う
- ・世代や地域を超えて伝統や文化を学びあい「うたごえ」を次世代につなぐ
- ・関係諸団体との交流を深め運動を発展させる

☆日程と会場

2024年11月29日(金)～12月1日(日)
佐賀アリーナ、佐賀市文化会館ほか

☆祭事名・テーマ

2024日本のうたごえ祭典in佐賀
Love&Peace 未来の子どもたちへ

☆祭典内容

大音楽会、特別音楽会、合唱発表会

☆主催

2024日本のうたごえ祭典in佐賀実行委員会

☆チケット (組織目標)

大音楽会： 6,000枚
特別音楽会： 2,000枚

☆賛同金目標

佐賀： 300万円
全国： 350万円

その流れを未来へと繋げていくために、今年には県内の保育、教育関係の若者にも声をかけ、全国の若者とも連携しながらうたごえ運動の継承を図る「つながりステージ」を企画しています。全国的にも課題となっている世代をつなぐ企画として、ぜひとも実現したい企画の一つです。

語りと合唱による組曲「平和の旅へ」

長崎の被爆者渡辺千恵子さんの半生を綴った「平和の旅へ」を佐賀、九州を中心とした三百五十人規模の合唱団で歌い、平和の誓いを新たにするとともに全国にも訴えようという企画です。佐賀にはこの組曲を二十年以上歌い続けている「平和の旅へ」合唱団・佐賀があります。本家長崎や九州、全

国の仲間とともに佐賀アリーナの舞台で共に歌える日を心より待ち望んでいます。

佐賀の合唱団とともに

このステージは佐賀の仲間数百人を中心に「ふるさとの四季」を歌おうという企画です。「ふるさとの四季」は「故郷」や「春の小川」「紅葉」等の童謡唱歌十二曲を源田俊一郎さんの編曲によりメドレー形式にまとめられたものです。誰もががかって歌ったであろう親しみやすい曲を佐賀の仲間を中心として歌い、大衆運動として進化してきたうたごえ運動が今後ますます広がっていくよう、また、集まった様々な階層の人々が、垣根を越えて、共にうたい喜び、楽しさを分かち合えるようになればとの思いで企画しています。

予算案の概要

(収入)	
チケット収入	20,480千円
賛同金	6,500千円
事業収益	2,250千円
その他収入	150千円
計	29,380千円

(支出)	
会場費	15,550千円
企画費	4,670千円
組織費	750千円
広報宣伝費	250千円
事務局費	7,660千円
予備費	500千円
計	29,380千円

※上記予算案には練習会場運営に要する経費は含んでいません。

ぞうれっしゃがやってきた

このステージは今祭典のテーマの一つでもある「つながり」を考えたときに出てきた企画で、子どもから大人まで誰もが楽しみなながら平和について考える素晴らしい曲です。かつて佐賀でも走った「ぞうれっしゃ」を全国の仲間の手を借りてもう一度佐賀の地で走らせたいという思いでたてた企画です。

女声合唱

このステージは、LGBTQの権利獲得の運動や、女性の権利向上の運動の中で歌われてきた「いのちをうたおう」を全国の女性の仲間五百人で歌おうという企画です。佐賀では毎月十一日に佐賀駅前前の街角広場でフラワーデモを行っており、佐賀のうたごえ協議会も参加しています。その時に歌う歌「いのちをうたおう」を全国の女性の仲間と歌い交わし連携し、女性の地位向上だけでなく、誰もが生きやすい世の中にしたという思いで企画しています。

歓迎の踊り

このステージは、第二部のオープニングを飾るステージとして、鹿島市のほとめき会二百人による

全国二つのたたかい

佐賀には「よみがえれ！有明海訴訟」「佐賀空港へのオスプレイ配備反対」「原発なくそう！九州玄海訴訟」の三つのたたかいがあります。先日行われた佐賀市で開催された全国創作講習会のプレイベントで、佐賀空港のオスプレイ駐機場建設現場視察後、この三つのたたかいの当事者から直接話を聞く機会を設けて頂きました。その時、参加者からこれらの問題は佐賀だけの問題ではなく全国各地

荒木栄を歌う

このステージは、九州を代表する大作曲家荒木栄の曲を、次の日本を背負う若者世代が受け継いでいくにはどうしたら良いかとの問いかけから生まれた企画です。既に池辺晋一郎さん他二名の作曲家

歌い継ごう

このステージはうたごえ創立七十五周年記念に編纂された六人の音楽家によるオムニバス作品集「スタートライン」、ウクライナやパレスチナ、憲法改悪の動きな

若者とともに

このステージは祭典を貫くテーマの一つ「つなぐ」の一形態「世代継承」を具現化するために、若者を中心とした合唱団が「今、この時代に」「HEIMAの鐘」を歌

エンディング

最後に、日本のうたごえ祭典の次期開催地「兵庫県」への引継ぎセレモニーを経て、出演者と会場の皆さん全員、数千人規模で歌う「翼をください」の大合唱で、この祭典の幕を閉じる予定です。この祭典が成功裏に終わることを祈念して、企画案の紹介を終わります。今回伝えられなかった企画案は次号以降でお伝えします。



たまたま今、野

(一面「委員長挨拶」から続く) その中で私は歌には力があるなどということを感じてきました。今ご紹介した阪神淡路大震災の被災者の人たちの仮設住宅、福岡の福岡という原発の本当に間近な所で生活をすべて奪われた方々が避難しておられた郡山市内の仮設住宅、あるいは期せずして(本人がなりたくてなかったという人には一人もお目にか

宿をしておられる方々、こういう方々と色んな歌を通じて交流して頂かせる中で、必ず私が歌の活動の最初に歌ってきた歌があります。それは「幸せなら手をたたこう」です。これほど観衆を一つにする歌はないと思います。(パンパンという手拍子あり) 幸せなら手をたたこう♪ (パンパンという手拍子あり) でしょうか？一発なんです。そして最後の歌は「上を向いて歩こう」です。♪ 思いだす秋の日 独のぼっちじゃない 今日 ♪ と言ってお別れします。絶

対に一人じゃないよと思いがら、歌を歌いながら分かち合わせて頂いています。つい今週の火曜日も久留米の公園で今、野宿をしている方々、あるいは生活困難の中にある方々と一緒に、この歌を歌ってきました。本当に歌には不思議な力がある。確かに今腹の足しになるわけでもない、歌って何かが変わるわけでもないかもしれない。けれど、歌によって人と人との心がつなぎとめられていく。あるいは、ちょっとだけ明日も

生きてみようかなという気になれる。そういう力があるのだと私は思っています。そして、歌ということでは、私の中で刻んでいるのは、私の最も尊敬する牧師、マルティン・ルーサー・キング牧師の公民権運動、のちのベトナム反戦運動、デモ行進の中には必ず歌がありました。それはかの有名な「ウェイ・シャル・オーバーカム」です。本当にいい運動にはいい音楽が必ず備わっているということを感じてきましたし、今からも歌の力を信じたいと思っています。

来年のうたごえ祭典、そのよくな思いを皆さんと分かち合うことができましたら、まだまだ、まだ、あきらめていない場合ではない。私たち大人が本当に踏ん張らなければ。そして歌をとおして繋がることの喜びを次の世代に伝えていかなければと思っ